

## 支部長挨拶



支部長 加澤正樹  
(昭和48年法卒)

人文・法・経済学部同窓会首都圏支部の会員の皆さま、お元気でお過ごしでしょうか。新型コロナ禍のため、外出もままならない不便な生活が長くなり、支部活動も一年以上休止状態です。

先般のメール理事会において、残念ながら今年の支部総会も中止と決定させていただきました。今後、ワクチンの接種が進み、7月末には65歳以上の高齢者、秋の終わりには一般人へのワクチン接種が完了するのだとですが、従前どおりの社会生活が戻つてくる保証はありません。

昨年春のご挨拶で「首都圏の若い仲間の集まりと交流を支援するのが当面の目標」などと勇ましい宣言をしたことが夢のようです。

アフター「コロナ」の社会は、大勢の人間が集まり飲食談話する会合是最も忌むべきものとなってしまいました。同窓会活動も、ネットを活用した交流を活動の中心とする方向で考えなければならないと思われます。

次の首都圏支部総会は何とか来年6月ころには開催したいと考えておりますが、時代の流れに即応した「新しい総会」とするためには、今年の秋には準備活動を開始する必要があると思います。

委員会を秋ごろには立ち上げたいので、若い人の斬新な企画力、柔軟な知識と知恵を貸してください。

この活動休止期間中に「同窓会通信」の新編集委員を勤員して、支部会員全員を対象に同窓会通信受信に関するアンケート調査をさせていただきました。この調査は、関係者が集まることがなく計画立案から調査の準備実施、集計までのほとんどをメールのやり取りで行ないました。慣れないことばかりで円滑に進んだとは言えませんが、今後のWebを利用した活動の練習になりました。

調査結果の詳細は、本号に掲載の報告書をお読みください。

# きね

新潟大学  
人文・法・経済学部  
同窓会  
首都圏支部 同窓会報

第35号(2021年6月発行)



編集責任者 山崎彌代一  
事務局 T 167-0032  
東京都杉並区天沼2-22-2  
Eメール:  
yayoichi@jcom.home.ne.jp  
■同窓会本部Facebook(グループ)  
<https://www.facebook.com/groups/334002366691370/>

## 令和3年度第1回理事会報告



事務局長  
山崎彌代一  
(昭和44年経済卒)

令和3年度第1回理事会をメールで審議しました。4月17日に議題を送信し30日までに29名(常任理事6名と会計監事2名を除く)から回答をいただきました。

議題は以下のとおりです。

1. 令和2年度事業報告
2. 令和2年度決算及び監査報告
3. 令和3年度事業計画
4. 令和3年度予算案
5. 第22回総会について

すべての議題が29名全員の賛成で承認されました。議題の説明と理事から頂いたご意見を紹介します。なお議題2と4について次ページの会計報告と重複する説明は割愛します。

議題1と2  
(次年度繰越金) 令和2年度は  
コロナのため予定していた活動

の大半が出来なかつたため次年度繰越金が888,245円で前年度の208,625円に比べ679,620円増加しました。これだけ繰越金があるなら会費徴収を1年やめはどうかという意見がありました。

議題3、4、5

令和3年度も今のところコロナの収束が見通せないので下半期から例年ベースに戻る想定で事業計画と予算を組みました。例年6月開催の支部総会は見送ります。また青松は年1回の発行とします。

(会費収入) 前年の300,000円から250,000円にしました。これに対し会費予算は実績予想でなく目標額を掲げるのでこれは会費収入を減らしても差し支えないというメッセージを伝えることになるという意見、会報の発行回数減だけをもとにした収入見込みは会員に対し失礼であるという意見をいただきました。

(若手組織・同好会事業費)  
若手組織・同好会事業費が240,000円と総額しか表示してないため3人の理事から内訳を示してほしいという要望がありました。

内訳は若手交流会150,000円、首都圏五十嵐会40,000円、青松ウォーキング、25,000円、青松芝楽会25,000円です。

また下期に予定通り実行できるか疑問である、若手組織化事業について下期に集中しないでZoomを利用したりモート会議で平準化したらどうかという意見を頂戴しました。

(支部会報青松)

メールマガジンの受信者が全員の何割をカバーしているかにもよるがカバー率が高くないと同窓会との接触機会が減るから青松の発行回数は年2回を維持すべきであるという意見、青松はPDFフォーマットかメール添付での配布を検討してほしいという意見が出されました。

## 令和3年度活動計画案

1月上旬	6月下旬	4月17日	4月下旬
1月下旬	10月上旬	第1回理事会	同窓会通信調査結果の分析検討会(1)
若手交流会	若手交流会	青松35号発行	同窓会通信調査結果の分析検討会(2)
若手交流会	常任理事会(第2回理事会準備)	第89回青松ウォーキング	第2回理事会
若手交流会	第19回青松芝楽会	第90回青松ウォーキング	

1月下旬 常任理事会（令和4年度予算と事業計画）  
2月中旬 首都圏五十嵐会  
3月上旬 第91回青松ウォーキング  
3月中旬 常任理事会（令和4年度第1回理事会準備）  
ほかに毎月5日メールマガジン「同窓会通信」発行

締切後に振込まれた会員も記載しております。(ただし、締切後の入金金額は、年会費収入には含めておりません)。振込人数はほぼ一定しており、新規の納入者をいかに増やすかが課題です。2月のアンケートに振込票を同封しましたが、納入者一覧を入れなかつたため、恐らく払込済であるにもかかわらず、記憶が曖昧なので、念のため振込をしたという会員(2回振込みの会員85人、3回の会員3人)の皆様が多かつたと解釈しています。

ここでコロナ下にも拘わらず会費納入をしていただいた会員の皆様に、厚く御礼を申し上げます。

## 2. 令和3年度の予算案

事業計画に沿った予算を策定しました。年会費収入は、昨年度比▲5万円であります。支会報の発行が年1回に変更になつたことによるものです。例年前半で、大体180件から200件の振込があり、その実績を踏まえました。支出面では、配送費が2年前は80円台／部でしたが、現在は倍増し167円／部となっています。会報1回にしても、2年前とほぼ同額の配送料がかかります。今期は、若手の同窓会活動への参加、更にその運営を担つてもらうことが急務で

## メールマガジン受信調査 結果のご報告

支部長 加澤 正樹  
編集委員 岡 小夜子  
佐々木 覚  
小山 武良

3. 首都圏支部の会費納入のお願い  
2月に37年人文卒の会員から  
会費11,420円の振込がありま  
した。連絡を取らせていた  
だくと、奥様が出られ、3年前  
に先輩は亡くなられたそうです  
が、奥様がこれまで会費を納入  
していたということでした。今回  
おコメ代金の支払金額を誤つて  
会費として入力されたということ  
でした。今回は最後の会費とし  
て千円頂き残金は返却しま  
た。大変頭の下がる思いをいたし  
ました。

新潟大学人文・法・経済学部同窓会首都圏支部

#### ●令和2年度会計収支報告（平成2年4月1日～令和3年3月31日）

『収入の部』		(単位：円)	
項目	決算額	摘要	予算
前年度繰越金	208,625		208,625
年会費収入	357,572	347件（前年282件）	300,000
総会参加費	0	中止	300,000
理事会参加費	0	中止	100,000
本部助成金	1,200,000		1,200,000
預金利子	1		1
合計	1,766,198		2,108,626

## 『支出の部』 (単位:円)

項目	決算額	摘要	予算
支部会報発行費	779,946	製作費211,055 発送費478,843	776,000
		封入作業費90,048	
年次総会関係費	0	中止	440,000
理事会関係費	0	中止	420,000
若手組織化・同好会事業費	0	中止	190,000
常任理事会等打合せ	12,831		70,000
事務経費等	85,176		70,000
予備費	0		142,626
次期繰越金	888,245		0
合計	1,766,198		2,108,626

●令和3年度事業予算案(平成3年4月1日～令和4年3月31日)

『収入の部』		(単位：円)
項目	予算	摘要
前年度繰越金	888,245	
年会費収入	250,000	会報年1回発行へ削減
本部助成金	1,200,000	
預金利子	1	
合計	2,338,246	

《支出の部》 (単位:円)

項目	予算	摘要
支部会報発行費	780,000	制作211千、発送478千、作業91千
若手組織・同好会事業費	240,000	新たに若手交流会2回開催
常任理事会等打合せ	70,000	前々年度並み
事務経費等	70,000	前々年度並み
同窓会通信充実費	100,000	新規事業
次期継越金	1,078,246	
合計	2,338,246	



## みんなの広場

# ZOOM飲み会を楽しむ

桑原 興一

(昭和45年経済卒)

自宅の一室でパソコンを前にビール片手に叫ぶ姿は、最近ではよくある光景となっていました。私の場合は同窓会の仲間と行うZOOMオンライン飲み会で、昨年4月から毎月に1、2度ほどの頻度で行っています。雑談が主の飲み会ですが、時には同好会のイベントの打ち合わせに使うこともあります。

この仲間には15年ほど前に私も加えていただき、ことあるごとに居酒屋に集まり交流を深めていました。昨年からのコロナ禍でなんとか三密を避けて感染予防ができる飲み会の場所がないものかと思案している中、ZO

OMによる飲み会の話が持ち上がりました。しかし全員がZOOM未経験者で、パソコン操作や、やつたことのないオンライン飲み会には多少の拒否反応もあります。とにかく試しにやってみると、意外なことに予想以上に楽しめるものでした。参加者が増えればもっと楽しくなるはずと、他の方も誘い、今では5名の参加で行っています。平均年齢はアラエイティであります。

オンライン飲み会での話の盛

り上がり様は居酒屋と変わらず、パソコンに向かっていることを忘れます。ZOOM飲み会ならではの楽しみ方もあります。

パソコンの中にある写真や動画やファイルを全員のパソコン画面に共有表示すれば、話がより具体的になり、深まります。

例えば私の自宅近くで発生した火事の様子を動画撮影し、それを再生しながら恐怖体験を話してみたのですが、言葉だけとの違いは明白です。また、打ち合せではワードなんかの文書を表示して話を進めることができます。話し合いで決まったことはその場でワード文章を変更すれば効率的です。

ZOOM会議の参加方法は実

は非常に簡単なのですが、「パソコンの操作が得意ではないので」と敬遠する人が実に多いのは残念なことです。とにかくやつてみることが大切なのではと思いません。世の中の変化は

平成6年法卒の主人と結婚して東京に来て今年で25年、銀婚式を迎えます。高3と高2の娘は、現在休校でオンライン授業です。長女は受験生ですが事態は流動的です。尋常ではない今回の感染症は、今後の生活様式のみならず、いろいろな価値観さえも変えていくでしょう。これまで、私自身にも難局はたくさんありましたが、自分より守りたい命があること、こうして、東京で暮らしているこの日常の原点は、大学で主人と出会ったそれに尽きます。

年を経ることに、母校愛は増していき、新潟の豊かな自然と、広大なヤンバスを懐かしく思います。静かな日本海の青と、海風、どこまでも続く豊かな緑の田園、秋には黄金色の稲穂、のんびり優しく学生生活を支えてくださった人々、自分のもうひとつ故郷です。その証拠に私はいまだに、時々、天気予報で新潟県に反応することがあります。アルバイトもたくさんし勉強も懸命に取り組みました。

私は、子供たちが中学生になるのを機会に、子供の貧困や、不妊症、不育症の問題に取り組みたいと思い、非常勤で学童保育施設に勤務しました。きっかけは、その数年前の区からの子供の貧困に関する意識調査でした。子供は、生まれてくる星の下は選べません。その子の望む人生を手に入れられるように、チャンスを与えなければ、子供には特に経済力がありません。そして、私自身が、長いこと子

うし、どんどんと新しいものが出現するでしょう。できるだけこれらのものを生活に取り入れ

て楽しみ、デジタル弱者にならない様にしていきたいと思っています。



富田（佐藤）美由紀  
(平成7年法卒)

宝に恵まれなかつた経緯から、産みたい人、そしてさらには、産まない人、産みたくても拳児を得ることができなかつた人、誕生死を経験した人、悩み苦しめ心を痛めてしまつた人に寄り添いたいと思いました。

その人の心に共感することは、完全には出来ないし、時として無礼かもしれません。だけれど、同じ経験をした私は、今後のライフワークをこれに定めました。法律も、裁判も判決も教職に就く気は全くありませんでしたが、取得した教員免許は、後年、放課後児童支援員の資格を取るときに役に立ちました。入学した時はまだよかつたのに、就職氷河期にあたり、女子学生は特に苦労しました。しかし、その時証券会社で取得した証券外務員の資格は永久的だとか。なにより、大学で学んだことや一人暮らしの知恵は、どこかで物事を考える下地になっています。そして心にあります。そこで物事を考へる下地になつていています。そして心にあります。そこで物事を考へる下地になつていています。そして心にあります。

## 編集後記

遅れていたワクチン接種も軌道に乗り始めたようで小生も6月初めに第1回を受けました。以前のような普通の生活に早く戻つてほしいものです。（山崎）